

令和6年度第3回加西市子ども・子育て会議

日時：令和7年1月29日(水)

13:30～15:19

場所：加西市役所 5階大会議室

1 開会

2 教育長挨拶

3 協議・報告事項

(1)「第3期加西市子ども・子育て支援事業計画」の素案について

○会長 今日はいくつか議題がありますが、主としては素案という提案なのですが、その素案を取りたいというふうな勢いで、ぜひ最終的なご意見を重ねて加西市のいい方向性というのを我々が共通理解して取組んでいけたらと思っております。

国でもこども家庭庁というのができて、新しい管轄庁でスタッフもなかなか難しいところがありますが、そういった状況であるからこそ、全国の地域のいろいろな先進的な取組みというのを国の政策に反映していくということはあるかと思しますので、まとまったら国のほうに届けてあげてください。

それでは、主題については2つの項目がありますので、順次これに沿って進めていきたいと思っております。それでは、第1の事項ですが、第3期の加西市子ども・子育て支援事業計画素案について、最初に事務局から報告を受けて、我々の意見を重ねていきたいと思っております。それぞれ委員の方々の気づきの点で、何かご指摘ご提案等々いただければありがたいというふうに思います。

10ページにありますように体系性というようなところ。分かりやすく具体的にぼんと出すほうが、こういった類のところではインパクトになるのかなど。屋上屋を重ねるようなごたごた前文前置き序文みたいところで膨らむよりも、具体的に何をやるかというところを示していただいているところは好印象として受けとめております。

最後に用語集がありまして、辞典から引き出したなんていうのはインパクトがありませんし、用語というのはトレンド的な解釈もありますので、下手に昔の辞典とかでやると古い世代の把握になってしまう恐れがありますから、今の現実の中での把握というところでのほうがむしろ分かりやすいのかなという気がします。

22ページに「ねひめキッズ」というのがありますね。根日女というのは有名ですけど、加西市以外の方からしたら根日女とは何なのとなりますよね。こういった

ところはぜひ用語集のところでも補足して、ローカルターンでもちゃんと全国に発信する内容だとすれば、ぜひ用語集なんかでも、補っておいていただければありがたいかなという気がいたします。

人数をきちきちっと示しておられますけど、これは描いた餅であって、実際は予算がないから執行できないみたいなことになると、ある意味では契約書になりますからね。もしこれが実行できない場合は、市長を初めそういう人たちの責任というのが問われてくる。非常に大変重たいものですので、予算を通してください。

- A委員　　まず、12ページです。計画の評価のところの評価指標のすぐ後にアンケート結果が見られるようになって、すごく分かりやすくなったなと思いました。あと32ページの病児・病後児保育事業のところ、今まで病児保育の施設が1か所だったのが3か所に増えるということがすごく嬉しくなりました。
- 事務局　　増える分は体調不良児対応型なので、登園後、発熱があって体調が悪くなったときでも、そのまま預かってほしいというようなことが要望があれば、保育とは別にお迎えの時間まで預かるという事業になるので、その在園児でないと利用できないということです。
- B委員　　令和7年度以降の人数が最初に出てきている文章と全然合っていないだろうというのは、読んでいてやっぱり思っちゃうんですね。国として保育のニーズが上がっているといいながら加西市ではそうでもないかなという現状。何ならばっとさっき見た表では年間100人単位で子どもが減っているという表を見せられると、そこに齟齬があるんじゃないかなという気がしたんですけども。6ページですね。教育・保育の充実のところに書いてある。増加傾向。保育ニーズが増加していますという。この増加というのは実数ではなくて、生まれた子に対する必要とするものの割合が増えているという意味ですか。
- 事務局　　我々の認識としましては、5つの無料化のうちの0、1、2歳児の保育料を無料化をしたと。無料化に合わせて小規模園なんかも増やしたところ、最終的にはほぼ埋まっているという状態になってきていますので、0歳から預けたいというニーズは、高まっているのではないかと認識しております。
- 事務局　　補足的なところなんですけど、まずアンケートの結果からいって、前回のアンケートの結果では、0歳の方の利用率、利用されていると回答された方は1割以下だったんですよ。それが今回2割に達しているので、アンケート結果からも利用率が上がっているということだったり、あとは国の育休取得の促進とかもあって、お母さんも育休の取得割合がアンケート結果とかで大分上がっているの、それはすなわち0歳から復帰される方も増えているし、低年齢の保育ニーズが上がっているということで、総合的に判断したということなんです。
- 会長　　今のキーワードが質保証ということをよく言うんですね。教育の質保証と

か保育の質保証とか医療の質保証とか、保証というのはものすごく問われてくる。0歳児保育をしてほしいというニーズについてはちゃんと対応していますよというところで問題解決するのではなくて、どういった質を求めているかという。中身もしっかりしてるよねと、そういったようなところも隠し味としてはちょっとあってもいいかなと思うんだけど、私の思い、感じ方というものを紹介させていただきました。

○事務局 質の保証ということに関して、子育ての環境という部分におきましては、園に預ける預けない、そういう観点ではなくて、在園児でなくても気軽に相談できる子育て広場も開催しています。健康課のほうでは0歳児から健診で丁寧に発達のほうも診るような体制も整っておりますし、ねひめキッズで発達に不安があるというようなところも健康課と一緒に連携しながらできる体制も整っておりますので、これが全体として質の向上につながっていくのではないかと考えております。

○会長 保育所保育指針で子育て支援という柱がありますが、その中で在園している子どもの保護者に対する子育て支援のみならず、地域で子育て中の親たちに対する支援を保育所がする責任と義務がある。つまり、子育て支援というのは籍を置いているからだけではなくて、保育所の役割として保育者はちゃんと社会デビューして、地域にデビューしてこぼれることのない支援をしていくよという、そういうことがありますよね。こういうねひめキッズとかいろいろあるよという説明があると、一人も落ちこぼしが無い。そういう手厚い加西市の支援方策だなということになりますね。

保育、学童保育というのと放課後デイサービスみたいのがありますね。若干、軽度の障がいを持っている子どもたちを預かるという。その辺りは分けてありますか、重ねてありますか。

○事務局 学童保育に通いながら、数日放デイにも通う方もおられますし、療育を中心にやりたいということで放デイを中心という方もいらっしゃる。そこに関しては、加西市に関してどちらか一方ということではしておりませんし、支援が必要であれば少し支援員の配置も厚くというようなこともしております。

○C委員 実際、学童保育の現場というのは支援を要する児童に限らず、希望された方を全て受け入れるということになってくると、受け入れるだけの資格を持っている人を学童保育の支援員にも雇い入れ、同時に研修を重ねることによって、そういった観点からも支援できるように進めているところでして、年々そういうような児童の入所が増えているというのが現実でありますので、保護者の方のニーズに応えるために欠かせない部分です。

○会長 素人が誰でもおいでというのと、無責任な質の低下を招きますけど、おっしゃったようにスタッフの研修の費用をちょっとサポートするとかね。そういった形

で複合的総合的なスタッフの構成ということであれば、誰でもおいでという形になりますよね。その辺のスタッフの底上げしていく研修費用もちゃんと賄うよという辺りで予算どりもしていただくとね。

○事務局 頑張っていきます。

○D委員 パブリックコメントを実施しました、意見がありませんでしたというのは可能なんですか。

○事務局 制度上からいくと、計画をつくる段階での意見を頂くという形で広く公表し、募集をした結果としてなかったということなので、その結果として受け止めるというところかなと思っています。あと、議会に提示をして、市民の意見を集めておられる議員からのご意見をいただいたというところではおります。

○D委員 パブリックコメントというところですごく一つのポイントであって、つくったよ利用しやすいよで、初めて情報の提供であったり、サービスの提供になるんですね。あるけど実施者がゼロとか、利用者ゼロというのはつくっただけなんですね。それこそ絵に描いた餅であって、この絵に描いた餅をいかに食べやすい餅に変えるかというのが、この子育て支援で一番求められることかなと思うので、このパブリックコメントアップしました、答えありませんでしたでは、次回考えることはこのパブリックコメントにいかに情報を入れてもらえるようにするかというのが、ここで考えていくべき事項なのかなと思いましたので、第3期計画が終わったときには、もっとコメントが来るような方法を考えられたらいいかなと思います。

○会長 幼稚園教育要領の特別な配慮を必要とする幼児への指導の中で海外から帰国した幼児や生活に必要な日本語の習得に困難のある幼児の幼稚園生活への適応ですね。こういったこともちょっと含めていただければ、外国籍の子どもを受け入れるという対応策だけでなく、何かもう少しまるやかに捉えられたほうがこぼれがないで済むかなというふうな。細かいところですよ。

○E委員 40ページの子どもの人口の推移と推計のデータの部分なんですけど、相対的には加西市の人口は減っているんですけど、子どもの人口も減っているはずなのに、転入は増えているから多いと。この表を見たらちょっと減っているから、どうなんかなと思ったんです。実際、低年齢の転入超過ってあるんですか。

○事務局 人口が増えているというところで、41ページが社会動態の推移になっておるんですが、令和3年から4年にかけて転入超過となっており、その下の表で年代別に見ると、20代30代の子育て世代の方の転入が主に増えているというところで、子どもがいらっしゃればその子どもの数も増える。さらにその世代が転入後に出産されると、そこでまた子どもの人数が増えますので、そういった関係で人口が増えているというふうな状況になっております。

○会長 17ページの保育士等キャリアアップ研修会の中に、学童支援員、放デイ

の方も含めてあらゆる子育てに関係する人たちのキャリアアップを図りますみたい
なところであれば、誰もがこの研修を受ける権利があるというふうになってくる。

ちょっと難しいですけど、初任給30万円ってどうですか。これは企業は30万
円とか言っているけど、そうだったらすごいね。働くなら加西市というふうな。

- 事務局 公立園の保育士は給与表に縛られていますので、私立園さんに頑張って
いただきたらと思います。保育士等のキャリアアップ研修に関しましては、私立園
の保育士さん、公立園の保育士さん、公立の学童保育園の支援員さんも案内をさせ
ていただいています。
- F委員 27ページの表の上のところにある文章の中で、公立園の持続可能な経
営が困難になることも想定されるため、統廃合も含めた検討が必要となりますとい
う記載があるかと思うんですけども、こういう書き方じゃないのかなというのが市
民の立場から見て思う部分がありまして、やっぱり子育て世代って、身近に子育て
を一緒に頑張れる環境があるというのがとても安心することにつながると思うんで
すけれども、ここでずばっと園がまた減るんだなみたいな。何かちょっと書き方と
して、もうちょっと何ですかね。何か市民の立場としてはいいのかなというふう
に感じました。また拠点が減っちゃうんだなという印象でしかなくなるというのが、
実際の子育て世代からの意見です。
- 事務局 この部分に関しては少し突っ込んだような表現になっているんですが、
やはり受け皿の確保と公立と私立園という部分もあります。子どもの取り扱いとい
うようなことになる時代になってくるかもしれません。その中で、公の部分として
担うべきところと私立園に任せていく部分というところに関しては、やはり私立園
の経営というところも考慮に入れていかないといけないというのが行政の立場かな
とは思っております。その中で、実際に統廃合を検討していかざるを得ない状況下
にはあるということで、あえて少し踏み込んだ表現はさせていただいております。
- 部長 考え方としてはそうなんですけど、表現の仕方というところで、書き方に
ついてはちょっとご意見を参考にしたいなど。
- 会長 いろいろな力学というのが錯綜していて、ここの掛け合わせ方は誰が書い
ても、書きにくいところだと思うんですけど、加西市としては公立園というのは、や
はりこの光を消してはならないという思いですよ。
- 事務局 そうですね。公立をなくすという計画ではありませんので。
- 会長 そこは出しておいていただいて、かといって民業を圧迫するわけじゃない
よと。その辺りをちょっとトップと相談していただいて、どう書き表していくかと
いうところのちょっと最後のもがきを強く求めます。
- D委員 先ほどの話に少しだけプラスしていいですか。公立園に行きたいという
学生が、園も資質向上を掲げましょうとっているのに、公立園にこの文言がある

と受けたくなくなるんです。加西市は除外します。なぜならば、統廃合するのか、ほなあそこの市はやめとこうとなるんですね。就職するときね。そしたら、この文言が書いてない西宮市にこう、この文言が書いていない加古川市にこうとなるわけなんですよ。統廃合すると書いてあると、ああいつか私この市町で公務員できなくなるのか、じゃよそ受けよう。加西市しか引っかかれへんかったわ、という方の受け皿になります。そこで資質向上を後に図ろうと思ったところで、もう遅いです。ということは、この書き方ではないほうが私も。

- 会長 今、教員養成、教員をやっていると私も就職先どうするって、いや、あそこはもうなくなるから、もうあそこじゃなくて地元ではなくて、ここを受けますとかね。そういう就職選択行動というのはあるんですね。

(2) 令和7年度認定こども園等の定員及び入所内定状況について

- 会長 実際の姿ということで受け止めたらいいいということですよ。
- 事務局 令和7年度につきましては、昨年10月1日から25日午後5時までにご提出、お申込みされました方々についての情報になります。
- 会長 減数というか、分母が減っているから、こういう減数になっているというふうに考えていいんですかね。
- 事務局 申込み者数は若干減ってきています。
- 会長 実数だと減っているとありますが、分母に対する比率を出すと少ないけど、ものすごく応募者はいいいよねという、数字の示し方のあやみみたいとこありますから、令和元年度144でも今もうこの数字なんて、思われても困りますよね。分母が違うからってことね。そう考えると、手元の資料にあるのかもしれませんが、比率からいうとどういう傾向ですか。維持されているか。比率もかなり下がっているのか。
- 事務局 教育利用と保育利用ということで考えますと、教育利用は減ってきていると思います。
- 会長 保護者はやっぱり教育利用の限定された時間帯よりもという思いはあるかもしれませんがね。
- 事務局 今年度は、働きたいという方や、経済的な理由で働かざるを得ないので保育利用したいというような方が増えてきているのは感じました。
- 会長 芦屋も現実を見るとやっぱり保護者のちまたで伝わってくる意見は、保育園のほうがいいよねと。生涯学習の観点からね。保育所のほうが長時間預かってくれるからいいよねという意見もちらほら聞くんですけど、そういう現実で選ぶ保護者もあります。街中のほうはね。それは自分が手抜きしたいわけじゃなくて、兵庫

県も生涯学習というのがあります、日本全国生涯学習とかね。子育て中の保護者は生涯学習から外れるのか、私たちだって学習したいよねというニーズですよ。でも、幼稚園終わったら、別の教室に行かないといけないから、そういう意味であえて短時間を選んでるという言葉もちらほら聞こえてきますよね。だから、子どもが幼児期に長時間保育受けるからしっかり子どもが自立して育っていくかということ、そうでない結果も結構あったりして。ただ、OECDはやはり今の教育・保育の質保証というものをきちっとするときにおいて、施設における教育活動の効果性という、一応肯定的に受け止めているという傾向はあるかと思います。保護者が子どもの発達教育等についての関心を持っている家庭と、関心を持たない家庭の場合、いろいろな微妙な傾向がありますので。教育がいいか、保育がいいか、なかなか結論として言いにくいところがありますけど、どちらを選んでも質保証というのは、絶対外してはならない前提ですよ。

日本一充実した幼児教育の充実した加西市になってほしいと思います。OECDの報告では先進国、これから勢いが出てくる国の推計をしているんですけど、やっぱりOECDでは幼児期の教育・保育にどれだけを予算化しているか。これがその国の今後の未来予測としての発展につながってくるということになるんですね。ですから、空回りする部分はあるとしても、やっぱり加西市は教育長がおっしゃっていましたが、幼児期の教育・保育にもものすごく予算化しているというのは、まさにOECDの未来予測にマッチしているすごい努力だと思うんですよ。

この報告はこれで受け賜って、それでよろしい。この中に未来予測も含まれていますか。現状はこうです。この中から一つ何か未来予測として、これからの新たな展開に対する方策、これが今日の冊子にある計画ですよ。こういうものをつながってくるということで、この令和7年度のこれを受け止めていきたいと思います。これはこれで計画は計画の中で、この現実というものをちゃんとこの計画の中に重ねていって受け止めていくという理解でよろしいでしょうか。

(3) その他(乳児等通園支援事業(こども誰でも通園制度)に係る法改正)

○会長 以前保育所入所措置という条件で「保育に欠ける」という言葉を使っていたんです。その後、今現在の「保育を必要とする」。今度「誰でも」というふうにキーワードが変わってきましたよね。どこがどう違うかというのはいろいろあるんですけど、非常に窓口が緩やかになって、じゃ誰でもいいよということ、窓口を広げただけでなく、誰でも受け入れるよということにおいては、そこにかぶさってくるのは、質保証をどうしていくかということですよ。

かつての保育に欠けるというのは、共働きであるとかいろいろな条件がありまし

たけれども、養護福祉みたいなイメージが強かったんですけど、幼稚園も保育所も窓口を広げていますよという、そういう考え方になってきていますので。今は本当に子どもたちをいろいろな条件、環境の中でしっかり育てようという、大前提の中で子ども誰でもが通園できるという形を取っていますので、その辺の観点というのがしっかりぶれないように社会システムをつくっていく必要があるかと思っています。

以上予定しておりましたその他も含めて3つ全て終わりました。その他特にはないですか。なければ一応事務局のほうにお返しして、あとの整理は事務局のほうでしてください。

5 教育部長挨拶

6 閉会